



近藤 大介 議員

まちづくりに「60歳の成人式」は

町長

還暦の同窓会に連携したい

〔近藤〕 超高齢化社会の時代になり、高齢者の医療・介護をどう支えるか、まちづくりの担い手不足をどうするかは大きな課題である。

60歳は人生の大きな節目であり、多くの人の入り口である。60歳以降の人生を健康でいきいきと暮らしていくため、地域の仲間づくりのきっかけとして、「60歳の成人式」を行うのはどうか。

〔町長〕 「還暦式」を行っている自治体もある。60歳を機に同窓会を行う人も多いので、これに連携して何かを行う方法もあるかと思う。

まちづくりに参画していただける人を増やす努力は必要であり、現役を退くようなタイミングで何か働きかけられることも一つの解決策になると考える。



地理的表示(GI)登録でブランド力高まる

町長

大山ブロッコリー、G1後の支援は関係者と連携し積極的にPRする

〔近藤〕 西日本一の生産量を誇る「大山ブロッコリー」が、近々、GI（国の地理的表示保護制度）の登録を受ける見通しと聞いている（12月27日に登録された）。

これを機に、大山ブロッコリーのブランド力向上をさらにはかつていかなければならぬ

い。PR支援の考えは。出荷ケースに補助金を出すことも必要ではないか。

〔町長〕 「大山ブロッコリー」としての価値が高まるよう、積極的なPRを生産者、関係者と力を合わせ行う。ふるさと納税の返礼品にも活用したい。

建て替えの大口駅舎にテナントは

町長

相談あれば検討する

〔近藤〕 JR大口駅舎を町の予算で建て替える方針が決まってきている（JRからの負担金有）。現在の計画では、待合室とトイレだけの簡易な施設だが、商業用のテナントなどを併設する考えはないか。

〔町長〕 駅舎併設で事業したいという相談があれば、ぜひ検討したい。

〔近藤〕 駅舎は地域振興の重要な拠点である。どう整備するか、住民との丁寧な議論が必要ではないか。

〔町長〕 駅舎はJRの持ち物で、基本的には民間企業であるJRが考えることだと考えている。



まちづくりの拠点として、どう生かすか